

令和8年5月吉日

環境システム計測制御学会 会員各位  
報道 各位

環境システム計測制御学会(EICA)

会長 西村 文武(京都大学大学院 工学研究科)

未来プロジェクト世話人 一同



## EICA 未来プロジェクト TSUNAGU21 VII

### ご案内とお願い

謹 啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素から環境システム計測制御学会(EICA)の活動にご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

近年、環境システム分野の事業環境は、少子高齢化と労働生産人口の減少を起因とした技術者不足や技術伝承機会の喪失、公共事業を含む環境関連投資の更なる縮小など、依然として厳しい状況にあります。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大が起点となった、従来のような対面によるコミュニケーション機会の激減など、これまでの働き方・暮らし方そのものが大きく変容しています。また世界的に見ても、気候変動に伴うアクションや環境保全、さらにはサステナビリティやSDGs、ダイバーシティー、社会的包摂性などへの関心は一層高まっています。

このような中、技術者・研究者・実務者は短期的に成果を求められ、それに応えようとするが故に活動領域や範囲、そして思考までもが狭く偏ることがしばしばあります。しかし、前述の社会状況を鑑みれば、いまこそ俯瞰した視野を持ち、業界内外との創造的な関係性の中で柔軟に発想し、対話を通じて学びを得ることでイノベーションを実現していく人材の育成が必要です。そのため、本学会では、未来を切り拓く次世代の若手技術者・研究者・実務者が産官学の組織枠・世代枠を越えて積極的な交流を進めていくことが重要と考えています。

本学会では、平成17年(2005年)より若手技術者・研究者・実務者のネットワーク形成のために、「未来プロジェクト」を開催してきました。同プロジェクトは各業界や当該分野で今後社会的に重要になると考えられる様々な社会課題をテーマとして取り上げ、そのテーマに即した第一線で活躍する講師を招き、セミナー形式で講演を開催し、講演後は参加メンバー間で、自由でフラットな対話を重視したグループワークを行います。組織枠・企業枠を越えた参加者間の交流を図り、普段は得られないような刺激を受け、未来の社会変革につながるユニークなアイデアを提案するプロセスを通じて、創造的な人材の育成を目指してきました。また、受講期間中または終了後に、本学会主催の研究発表会においてグループワークの内容の発表および、学会誌への研究成果論文を投稿して参りました。このような活動の結果として、同プロジェクトのこれまでの参加者は約280名を超え、現在では各参加者は企業/団体の責任ある立場で活躍されているとともに、技術者・研究者・実務者にわたる環境分野の人材のユニークなネットワークが形成されています。

本年は、現在の社会における不可欠な要素として、また、環境分野の一層の活性化、ならびに社会変革の実現に寄与する人材を生み出す取り組みとして、別添の企画を実施することといたしました。なお、今年度は対面形式で実施します。是非とも御目通しいただき、ご参加または参加者のご推薦を賜りますよう、お願い申し上げます。

謹 白

令和8年度のEICA未来プロジェクトは、表記のテーマを設定し、アドバイザーには、京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科の原田英典氏にご担当いただき、各界の第一線でご活躍されている方々によるセミナーを基本としたプログラムを計画しております。

## 1. 本プログラムの狙い

●現在世界では、政治、外交、気候、経済、衛生、居住等、多角的な環境変化の渦中にあり、これに起因する問題や課題が顕在化している。これは、海外だけの話ではなく日本国内においても同様であり、今後この流れは加速していくことになるだろう。このような潮流の中でも、私たちは社会をより良い形で後世に繋げていかねばならない。そして、社会が未来に続いていくうえで、「**“続く”**とは**“変化しない”**ではない」ということを私たちは意識しておく必要がある。

例えば、令和7年度の未来プロジェクトにおいて参加者間で議論されたことでもあるが、特定の国や地域の住民が拠り所としてきた「伝統」や「文化」は過去から今に至るまで不変であったから続いているのではなく、その本質を維持しながらも時代の要請に応じて形態を柔軟に変容させてきたからこそ、価値を創造し続け、現代まで続いてきたといえる。

●このように、私たちが所属する社会がこれからも続いていくためには、その社会を構成する諸システム(例えば、政治、経済、教育、インフラ等のシステム)に対して、「残すべき部分」と時代や環境そして社会を構成する人々の変化に応じて「変わりうる部分」があることを理解しつつ、その上で、社会システムを適応させ、また創造していく必要がある。加えて、多様な人々に対する社会的包摂性は近年一層高まっている。むしろ、これまで見過ごされがちだった人々や地域の知恵や視点を取り入れることで、厳しい時代を乗り越え、社会を未来へ導く新しいシステムを創造することが可能になるのではないだろうか。

一方で、社会とは、複数のシステムが相互に連携することで成り立ち、そして相互に影響を与えながら変化していくものである。このために、時代の変化に対して諸システムが調和し、社会の構成員一人一人の「幸せ」を実現する基盤となる社会システムを維持し続けることは容易ではない。しかし、だからこそ、様々なバックグラウンドを持つ人々が結集し、お互いの知恵を出しあい学びあいながら、このような課題に対する解決策を提案していくことには、大きな意義があると考えられる。

●そこで、今年度の未来プロジェクトでは、プロジェクト参加者にとって身近な地域を対象として、そこで生活する全ての人々が今後50年間に渡って「幸せ」を実現できる地域のための施策を考える。ある特定の地域の問題や課題は、その土地の歴史や特性に深く根差しており、地域社会を構成する多様な要素の相互作用の中でダイナミックに変化していく。本プロジェクトでは、「**50年後にその地域に住んでいる人々の暮らし**」を創造し、そのバックキャストから、どのような施策をどのタイミングで実施していくべきなのか、社会変化のダイナミズムを考慮した提案を行う。

## 2. 参加要件

### 2. 1. 参加対象

参加者の多様性を重視し、以下のいずれかに該当する方を対象とさせていただきます。

- ✓ 次世代を担う環境分野の学生・若手技術者・研究者・実務者（原則、40歳以下）
- ✓ SDGs や地域課題の解決に関心のある方（原則、40歳以下）
- ✓ 過去の未来プロジェクトに参加経験のある OB,OG の方々（年齢不問）

毎年、様々な立場の方がご参加されています。営業職やバックオフィス職の方々、自治体の方々も、SDGs や地域課題の解決にご興味がありましたら参加を歓迎いたします。

### 2. 2. 参加費

第1回、4回セミナー参加費は4,000円/回。（セミナー後の交流会会費は別途1,000円）

第2回、第3回セミナー（宿泊）の参加費は別途ご案内いたします。

なお、参加希望者は当学会の個人会員登録（学生は年会費無料）をお願いします。

### 2. 3. 申込方法と締め切り

お申し込みは、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、メールにてお申し込みをお願い致します。

尚、本プロジェクトの目的を考慮し、当年度を通してご参加頂ける方をお願い致します。

また、**申込締め切りは6月12日（金）**としますが、申込人数が30名に達し次第締め切りとなりますので、お早目のお申し込みをお願い申し上げます。

### 3. 本プロジェクト スケジュールと講師

	日時/会場	内容
第1回	6/30(火) 13:00~17:00 @三菱電機 関西支店(大阪)	・『未来PJオリエンテーション』 講師：世話人一同  ・『技術開発と多様性・包摂性-日本の課題からアフリカでのチャレンジまで-』 講師：原田 英典 先生(京都大学)
第2回	7/14 (火) 10:00~ 7/15 (水) 17:00 @堀場製作所 研修所(朽木)	・『〇〇(調整中)』 講師：工藤 尚悟 様(国際教養大学)  ・各 Gr テーマ設定
第3回	8/中旬 (調整中) 1泊2日 @石川県	・石川県能登町における1泊2日の研修を調整中。 ・10月中旬に実施する可能性あり。その場合は、8月中旬に東京で研修(14:00~17:00)を実施予定。
第4回	10/2 (金) 14:00~17:00 @東芝 共創スタジオ (神奈川)	・セミナーの総括 ・Grワークの中間報告
中間報告会	11/5(木),6(金) @横浜	・研究発表会 Grワークの成果を各グループから報告(学会発表) <u>※研究発表会への参加は別途申込が必要となります</u>
論文提出	12/18(金)	・これまでに討議した内容をまとめて論文として投稿。

#### 【参加にあたっての留意事項】

参加者間の議論を円滑に行うため、5~6名程度のグループに分けて議論を行っていただきます。最終的な成果の取り纏めにあたっては、上記日程以外でのグループワークが発生する可能性がありますのでご承知おきください。